2012年5月

各位

東北農村生活研究フォーラム・2012セミナーの御案内

皆様からの暖かい御理解、御協力のもとで、当フォーラムの活動は8年目に入りました。いつもありがとうございます。

昨年3月、第8回セミナーの検討を始めた矢先に、東日本大震災が発生し、想像を絶する甚大な被害に、セミナー開催を断念しかけました。しかし、農村生活研究としても「何が出来るか」知恵を絞り、行動すべきだと考えたところ、多方面からのご協力、ご参加があり、予定を上回る規模のセミナーを開催できました。

すでに1年数ヶ月が経過しましたが、被災地の復旧、復興には、なお多くの障害があり、昨年のセミナーから、どんな動きにつながっていったのかを確かめることも必要です。今回も、我々がこれまで積み上げてきた農業や農村についての「地を這うような」活動の延長線で、被災地の復興のあり方を考えたいと思っておりますが、今年は、人として生きていくための不可欠な「仕事」をテーマに企画しました。

今回も、幅広い分野の、いろいろな角度からのご検討を頂きたいので、是非、お心当たりの方にもお声がけ、お誘いのうえ、多数ご参加くださいますようお願いいたします。

なお、会場は足の便の良い場所ですが、念のため下記の通り交通案内いたします。

- ① Rと仙台空港アクセス鉄道の利用が便利です。

JR仙台駅 → 名取駅 → 杜せきのした駅
(直通) 9:53 → 10:07 → 10:10
10:10 → 10:24 → 10:27
10:34 → 10:48 → 10:51

下車したら、2階のイオンモールへの連絡橋を渡り、イオンモール7番入口に入って直進。奥(2つ目)のエスカレーターで1階へ下り、左手の食堂街(GOURMET GARDEN)の通路を進むと、突き当たりの右手が会場です。

- ②自家用車でのご来場は、イオンモールの駐車場(無料)を利用してください。イオンモール1階の2番エアリコート南入口から入ると、すぐ右手側が食堂街(GOURMET GARDEN)です。その通路を進むと、突き当たりの右手が会場。イオンモール1階の5番エアリコート北入口から入ると、そのまま直進すれば2番エアリコート南入口に突き当たります(左手側が食堂街)。

農村の知恵と技で『仕事』を生み出す

～着物リフォーム・飯舘村の「までい着」プロジェクト～

2011年3月11日、東日本の沿岸地帯は大規模な地震と津波、さらに放射性物質の飛散で未曾有の被害を受けた。現在も故郷の農村を離れ、避難生活を強いられている被災者の大きな悩みの一つが「仕事」の確保である。大勢の老若男女が住居や家財とともに「仕事」を奪われたが、「仕事」は暮らしを賄う収入の手段というだけでなく、社会とのつながりを保つ＝人が人であるための必須要素でもある。農村で働き、暮らす中で培われ、積み上げられてきた知恵や技能を生かして「仕事」を生み出している活動事例を通して、人間らしく生きるためのアイデアや実践方法を見だし、全てを奪われ苦悩と困難な中で故郷へ帰るために奮闘している仮設住宅等の人々への支援と、被災地の復興につなげたい。

- 1 期 日 2012年7月21日(土)午前11時から午後3時まで
- 2 場 所 イオンホール(名取市・イオンモール内)
(仙台空港アクセス鉄道・杜せきのした駅から、イオンモールへの連絡橋有り)
- 3 主 催 東北農村生活研究フォーラム
後 援 日本農村生活学会
- 4 日 程
10:30 受付開始
11:00 開 会
11:10 話題提供『ふるさとへの思いを込めて「までい着」を販売』
～東日本大震災の避難生活の中で女性たちが見いだした仕事～
福島県飯舘村(福島市松川工業団地第1仮設住宅) 佐野 ハツノさん
12:30 …… 昼食・休憩 ……
13:30 事例報告『支援の古着物で手仕事に取り組む』
宮城県名取市入生地区(名取市植松仮設住宅) 引地 道子さん
14:00 総合討議：避難生活を支える農村の力とは
～被災者の「仕事」を生み出すために、どんな支援があるのか～
15:00 閉 会

5 参加申し込み

参加費 400 円。先着 50 名まで(定員になり次第、締め切らせていただきます)。

7月13日(金)までに、氏名・連絡先を明記のうえ、下記の事務局へ。

※イオンモール内にはレストラン等がありますが、「なとり食彩」の皆さんによる地場食材等のお弁当(600円)を斡旋します。ご希望の場合は同時にお申し込みください。

東北農村生活研究フォーラム事務局 担当・河野(宮城県農業・園芸総合研究所)

電話 022-383-8111 内線 2200, FAX 022-383-9907, eメール kono-ak954@pref.miyagi.jp